

最優秀

## 家族のピオーネ

新見市立新見南小学校

三年 佐藤紀衣

ぼくのばあちゃんは、ピオーネを作っています。ばあちゃんには、ピオーネを作って十四年目になります。このピオーネは、ぼくのおじいちゃんが作りはじめたそうです。おじいちゃんは、ぼくが生まれるずっと前になくなってしまいました。その後からずつとばあちゃんたちが大切に作っています。

ピオーネ作りはとても大へんそうです。とくに五月から七月はとつてもいそがしそうで、休まずに毎日仕事をしています。毎日つかれた顔で帰ってきます。ぼくは、

「ばあちゃんのにすごいな。」

と思います。おいしいピオーネを作るために毎日つかれてもつづけなくてはいけないので、ピオーネ作りは大へんです。

ぼくが小学校に入ってから、ピオーネ作りの手つだいができるようになりました。ピオーネハウスにビニールをはる時の手つだいです。このビニールはり、毎年家族みんなが集まって作ぎようします。ぼくができる手つだいは、ビニールを止めるクリップを運ぶことです。ばあちゃんや

おじいちゃんに

「きい、こつち持つて来て。」

とよばれると、そこに持つて行きます。

「きい、こつちも。」

と次つぎによんでくるので走って持つて行きます。ピオーネばたけはでこぼこしてさらに長ぐつなのでとても走りづらいです。しかもばあちゃんのピオーネばたけは広いので、遠くからよばれると走って行くことになり、つかれます。風がふかない朝早くからするので、ねむたくなるときもあります。でも、ばあちゃんたちが毎日がんばっているから、ぼくもがんばろうと思つて手つだっています。

この手つだいが終わるといつもばあちゃんが、

「ありがとう。きいがいてくれて、とても助かったよ。」

と言つてくれます。ぼくは、ばあちゃんを助けることができたんだと思うとうれしい気持ちになります。ばあちゃんは毎日つかれるまでがんばっているから、やくに立ててよかつたと思いました。

ばあちゃんの作るピオーネは、おじいちゃんが一人ではじめた家族みんなで大切にしたいピオーネです。今はばあちゃんがんばつて作つていて、ぼくができることは少ないです。でも大きくなつたらできることがふえます。今はクリップ運びしかできないけど、少しずつでもできる手つだいをふやしていきたいです。ぼくの家族ピオーネを大切にできるように、家族の一員としてがんばりたいです。